

米ドル建て新興国債券と新興国通貨の動向

【10月の米ドル建て新興国債券は上昇後下落に転じ、小幅安】

●10月の米ドル建て新興国債券は米ドルベースで約0.03%下落しました。

米国国債が下落基調となる中、月の前半に米国の追加経済対策がまとまるとの期待感などからリスクオンの市場環境となり、上昇しました。しかし、後半には追加経済対策の協議に停滞感が台頭し、下落に転じました。

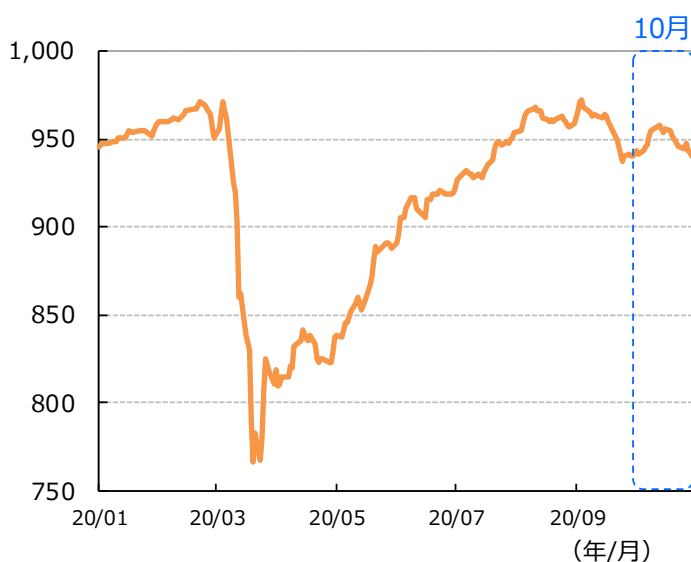
国別では、財政状況の厳しいスリランカ、アルゼンチンなどが下落しました。一方、年金支給額の増加などよりもインフラ整備を優先する与党が統一地方選で議席を伸ばしたルーマニアや、新型コロナ禍下でも移動制限を緩和したフィリピンなどが上昇しました。

【10月はトルコリラが下落も、米大統領選挙後を見越してメキシコペソは上昇】

●10月の主要新興国通貨の対円での騰落率をみると、メキシコペソ、南アフリカランド、タイバーツなどが上昇しました。メキシコペソは、米大統領選挙でバイデン氏が選出されれば、トランプ政権下で進められたメキシコから米国への輸入規制が転換するとの期待から、上昇しました。また、バイデン氏が巨額の財政支出を打ち出して米景気が持ち直せば、米国の輸入が増えてメキシコ経済にもプラスになるとの見方も後押ししました。

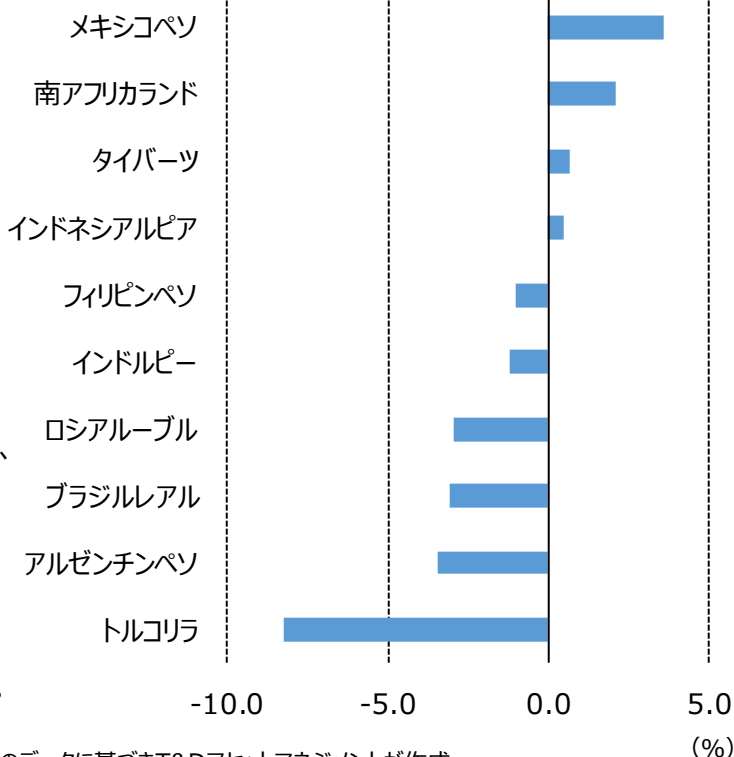
一方で、トルコリラ、アルゼンチンペソ、ブラジルレアルなどが下落しました。トルコリラ（対米ドル）は、10月に史上最安値を更新しました。米大統領選挙でバイデン氏が選出されれば、米国との関係が悪化するとの懸念が高まったことなどから、下落しました。また、ブラジルレアルも、環境重視のバイデン氏が大統領に選出されれば、石炭など化石燃料の需要が落ち込むとの懸念から下落しました。

米ドル建て新興国債券インデックスの推移（日次）



期間：2020年1月2日～2020年10月30日（日次）

10月の主要新興国通貨騰落率（対円）



出所：JPモルガン社、Bloombergのデータに基づきT&Dアセットマネジメントが作成
米ドル建て新興国債券インデックスは1993年12月末を100として算出されています。

当資料で使用するインデックスデータについては最終ページの【当資料で使用するデータについて】をご確認ください。

記載のデータは過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

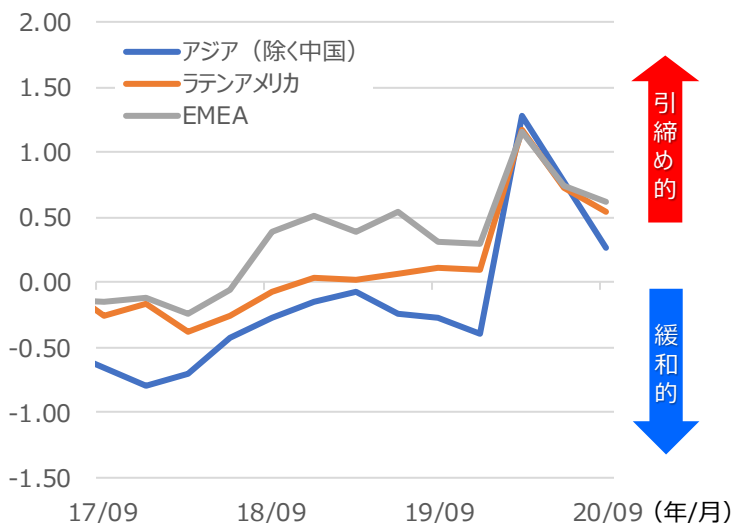
今月の注目点：新興国の金融環境は緩和的、米ドル建て新興国債券には資金流入

【新興国の金融環境は緩和方向に】

●新興国では概ねIMF（国際通貨基金）の金融環境指数がプラス圏内にあり、引締めめであるものの、緩和方向に向かっています。これは新興国の中央銀行が積極的に金融緩和政策を実施していることが背景にあり、IMFでは「金融市場の安定に役立った」と評価しています。

●IMFの金融環境指数は、世界の金融市場がどの程度緩和的あるいは引締めめな状況であるかを示す指標です。各種金利のスプレッド、株価やその変動率、為替レート、住宅価格等の指標を統合して作成され、マイナスは緩和的、プラスは引締めめであるとされます。

新興国地域の金融環境指数



アジア（除く中国）、ラテンアメリカ、EMEAともに新興国のみが対象
EMEAとは欧州・中東・アフリカを合わせた地域
期間：2017年9月～2020年9月（四半期）
出所：IMFのデータに基づきT&Dアセットマネジメントが作成

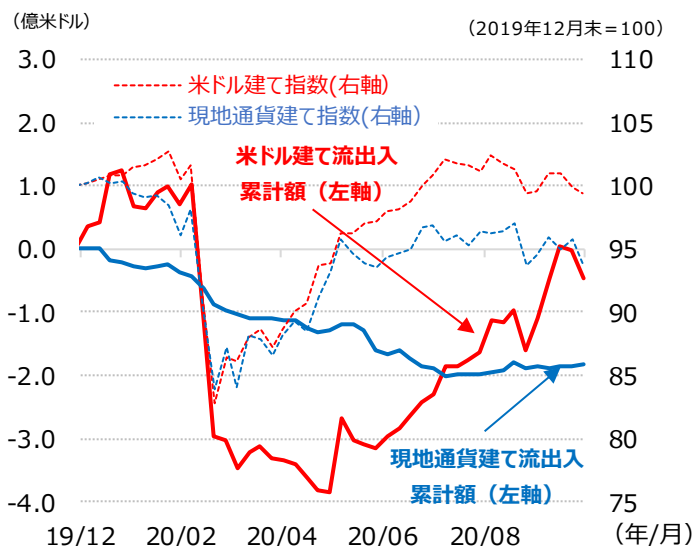
【米ドル建てに資金が流入、現地通貨建てへは流出入が均衡】

●新型コロナウイルスの感染拡大などを背景に、新興国経済が不安定化していることから、新興国債券ファンドへの投資を手控える投資家も多いようです。このような動向には、新興国通貨の下落なども影響しているようです。

●米国における新興国債券ファンドへの投資を通貨別でみると、高利回りを追求する動きが広がる中、米ドル建てには資金が流入している一方で、現地通貨建てからは資金流出しています。

このような動向を背景に、新興国債券指数（米ドルベース）では、年初来で米ドル建て指数が現地通貨建て指数を上回って推移しています。

新興国債券ファンドの年初来資金流入額



期間：2020年1月～2020年10月（週次）
流入額は米国籍のETFとオープンエンドファンドの合計額
米ドル建て指数、現地通貨建て指数（米ドル換算）は、それぞれ2019年12月末を100として指数化したものを掲載
出所：JPモルガン社、Bloombergのデータに基づきT&Dアセットマネジメントが作成

米ドル建て指数：米ドル建て新興国債券インデックス、現地通貨建て指数（米ドル換算）：現地通貨建て新興国債券インデックス
当資料で使用するインデックスデータについては最終ページの【当資料で使用するデータについて】をご確認ください。

記載のデータは過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

投資信託のお申込みに際してのご留意事項

投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券、投資信託証券など値動きのある有価証券（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、運用実績は市場環境等により変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。これら運用による損益は全て投資者に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）をよくお読みいただき、ご自身でご判断ください。

ご留意いただきたい事項

当資料は、T&Dアセットマネジメントが情報提供を目的として作成したご参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。当資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したのですが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

当資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。当資料は作成時点での見解であり、今後予告なく変更する場合があります。ご投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断ください。

投資信託に係る費用等について

◇投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料： 上限 4.40%(税込)
信託財産留保額： 上限 解約金額・償還金額の0.600% または1口（設定時1口1万円）あたり250円

◇投資者が信託財産で間接的に負担する費用 運用管理費用（信託報酬）： 上限 年 2.035%(税込)

その他の費用・手数料： 上記以外に保有期間に応じてご負担いただく費用があります。投資信託証券を組み入れる場合には、間接的にご負担いただく費用として、当該投資信託の資産から支払われる運用報酬、投資資産の取引費用等が発生します。これらの間接的な費用のご負担額に関しましては、その時々各投資信託証券の組入比率や取引内容等により金額が変動しますので、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※上記の費用の合計額については、投資者がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※詳細につきましては必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」でご確認ください。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、T & Dアセットマネジメントが運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容をよくお読みください。

照会先

T & Dアセットマネジメント株式会社

電話番号： 03-6722-4810（受付時間は営業日の午前9時～午後5時）

インターネットホームページ： <https://www.tdasst.co.jp/>

特別な記載がない限り、下記のインデックス(トータルリターン、最終利回り)を使用しています。

- 米ドル建て新興国債券インデックス: JPモルガンEMBIグローバル・ディバースファイド・インデックス
 - 現地通貨建て新興国債券インデックス: JP モルガン GBI EM グローバル・インデックス
- 指数に関する一切の知的財産権とその他一切の権利はJPモルガン社に帰属しております。JPモルガン社は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。JPモルガン社は指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。
- 当資料中に引用した各インデックス(指数)の商標、著作権、知的財産権およびその他一切の権利は各インデックスの算出元に帰属します。また各インデックスの算出元は、インデックスの内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。